

平成31・令和元年度
綾川町教育委員会評価

学校教育課評価シート

学校教育課		持続的教育活動を維持・形成を図る					
		主に「もの」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4	
		Plan		Do	Check	Action	
		計画・見通し		実行	振り返り	改善	
		内容(目安)	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組
学びの場や機会を保障する環境整備	1 校舎等の整備	<ul style="list-style-type: none"> 校舎修繕 運動場整備等 敷地内整備 	①羽床小学校調理場ドライ化改修工事 ②陶小学校トイレ改修工事 ③綾南中学校体育館改修工事 ④滝宮小学校中庭改修工事 ⑤綾上小学校ウッドデッキ修繕工事 ⑥綾上中学校プール棟改修工事 ⑦町学校施設長寿命化計画の策定	①R1.6.14~R1.10.31 (R1.10.28竣工) 契約金額 建築 54,230,000円 機械 21,583,100円 電気 13,167,000円 ②R1.6.14~R1.12.27 (R1.12.5竣工) 契約金額 建築 51,260,000円 設備 32,670,000円 ③R1.6.14~R2.1.31 (R2.1.22竣工) 契約金額 90,392,500円 ④R1.1.5~R2.3.19 契約金額 6,105,000円 ⑤R1.7.1~R1.8.30 (R1.8.30竣工) 契約金額 1,076,760円 ⑥R1.7.25~R1.9.30 (R1.9.30竣工) 契約金額 1,609,200円 ⑦町学校施設長寿命化計画の策定	①~⑥ ・すべての改修工事を計画どおり実行することができた。特に、①調理場ドライ化改修事業においては、今年度で町内すべての学校調理場のドライ化整備が完了した。 ⑦長寿命化計画の策定により、長期的な整備計画の方向性ができた。	4	<ul style="list-style-type: none"> 今後のトイレ整備事業の計画的な実行に向け、整備計画の再検討や予算の確保を行う。 また、工期については、夏季休業等を利用し、児童生徒の学習環境に配慮するよう努める。 長寿命化計画に基づき、施設の整備（改修等）計画を検討していく。
	2 教育関連備品等	<ul style="list-style-type: none"> 県の補助金事業「理科教育設備整備費事業」の有効活用 学習環境整備 ICT環境整備 	①理科教育設備整備費事業 中学校（綾上中） ②学習環境整備 プログラミング教育	①理科教材整備において、補助金を活用し整備。（真 空落下実験器、頭骨模型、携帯型スピードガン） （整備費 75,800円、補助金 37,000円） ②プログラミング教育推進校 陶小学校 教材費200,000円 社会貢献プログラムPepper導入	①理科教材整備を学校要望のとおり実施することができた。 ②プログラミング教育の必修化に向けて学校へ情報提供に努め、中学校にも教材を導入した。	4	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の理科備品の整備については、「理科教育整備事業」を積極的に活用するように指導する。 パソコンの1人1台導入に向け、計画的に予算措置に努める。

学校教育課		持続的教育活動を維持・形成を図る						
		主に「もの」に関して						
評価手順	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4		
	Plan		Do	Check		Action		
	計画・見通し		実行	振り返り		改善		
評価項	内容（目安）		取組成果		自己評価	委員評価		
	方法				課題への取組			
学びの場や機会を保障する環境整備	3	教科書並びに教材等	<ul style="list-style-type: none"> 教科書需要数・受領数の報告 教科書採択 	<ul style="list-style-type: none"> ①31年度需要数と30年度の受領数報告 ②小学校及び中学校の令和2年度使用教科用図書採択 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度使用小学校用教科用図書の採択並びに中学校用教科用図書の簡易採択に係る事務手続き等を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①報告こそ出来たものの、再提出になる事が多かった。 ②小学校教科用図書の採択、中学校教科用図書の簡易採択が滞りなく完了した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①複雑な事務作業に対して、事前に担当者との連携を強め、短期間であるものの余裕を持った提出を実現出来るよう努める。学校からの提出後は、必ず確認作業を行い、県に確実な情報をまとめた提出が出来るように取り組む。 ②令和3年度使用中学校教科用図書の円滑な採択に向け、坂出地区・丸亀地区と連携を深めながら準備を進める。
	4	外国語活動、外国語及び英語	<ul style="list-style-type: none"> ALTの計画的な派遣及び有効活用 中学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> JETプログラムを利用して安定的なALTの確保(平成29年度より2名に増員) 中学校英語担当教諭の小学校派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ALTを2中学校、5小学校に計画的に派遣（保育所・こども園・幼稚園にも派遣）する。 平成29年度2学期からALTを2名に増員し、小学校の外国語活動の教科化等に向けて対応している。 小学校3年生・4年生に年間35時間、5年生・6年生に年間70時間、外国語活動を実施している。 2名の県非常勤講師に町費を支出して追加指導を行う。 ALTの指導力・資質の向上を図るため、町一貫性教育研究会英語部会研修会への参加を促すとともに、拠点校における相互の授業参観を実施する。 中学校の英語教員が校区内の小学校に派遣され、毎週1時間T2として、5年生・6年生の外国語活動の指導に携わり、小中連携による英語指導の充実を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学校とも日常の授業や学校訪問の際の公開授業でALTを積極的に活用した。 ALTが相互に拠点校での授業を参観し、自らの授業を見つめ直す機会をもつことができた。 中学校英語教員の定期的な派遣により、英語教育における小中連携が促進された。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 保育所、こども園、幼稚園にもALTを派遣しているが、小・中学校への派遣に重点を置いているので派遣回数は少ない。 綾南中学校へ進学する4小学校における英語の指導方法・指導内容に格差が生じないように関係教員、ALT間で情報共有を図り、中学校での学習が円滑に開始できるように配慮する必要がある。 新年度より必修化される小学校の英語教育において、教員とALTとの更なる連携を図る。

学校教育課		持続的教育活動を維持・形成を図る					
		主に「もの」に関して					
評価手順	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4	
	Plan		Do	Check		Action	
評価項	計画・見通し		実行	振り返り		改善	
	内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組	
学びの場や機会を保障する環境整備	5	共同調理場調理業務等の民営化	<ul style="list-style-type: none"> 調理等民間委託による給食の安定供給 民間業者による調理員の確保 民間業者のノウハウ活用 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の課題点を受託調理員から聞き取り、問題点を迅速に解決することで、調理場内での異物混入や食中毒等の発生阻止に努めた。 来年度における給食数の増加に伴い、管理者と受託者が常に情報交換を行い、現場の問題点を委員会に報告し対応した。 	安心安全で美味しい給食作りの為に協力し合える関係を築いた。	4	<ul style="list-style-type: none"> 新たに保育所分の給食数が増える事から、これまで以上に調理員とは日々連絡を取り合い、課題点に対応していく。
	6	学校再編	<ul style="list-style-type: none"> 中学校再編（統合）への方向性の検討 児童生徒へのアンケート実施及び保護者への結果説明 学校再編整備計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営（綾上中学校）アンケート実施（H31.2月） 対象者 綾上小学生4～6年 綾上中学生1、2年 綾上小学生保護者 保護者へのアンケート結果報告会開催（R1.7.11） 学校再編整備計画（案）策定（R2.3月） 	<ul style="list-style-type: none"> 報告会において、参加者から統合の賛否についての意見が多くあり、早く方向性を決めてほしいとの要望があった。 計画素案の作成により、方向性を検討した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校再編整備計画を具体化するとともに、中学校統合に向けた体制づくりを図り、地元（特に保護者）の意見を集約しながらスムーズに再編整備できるよう進める。

学校教育課		自主的活動や「かかわり合い」を重視した活動の推進					
		主に「ひと」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4	
		Plan		Do	Check	Action	
		計画・見通し		実行	振り返り	改善	
		内容	方法	取組成果	自己評価	委員評価	
						課題への取組	
人材力を活かす事ができる環境整備	1 保健安全	<ul style="list-style-type: none"> ①健診（就学前児童、職員） ②安全点検 ③日本スポーツ振興センター ④食物アレルギーのある児童生徒への対応 ⑤県費職員のストレスチェック制度実施 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校医、産業医による健診 ②業務委託（消防、遊具） ③保険加入し、治療請求 ④栄養教諭による指導 ⑤公立学校共済組合に委託してweb上で質問に回答。医師による面接指導や集団分析有り 	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員健康診断6月～8月（陶病院、滝宮病院で実施） 就学前健診10月～11月（小学校5校で実施） ②消防点検各学校年2回、小学校遊具点検夏休みに実施 ③日本スポーツ振興センターへの加入依頼、請求 ④町教育委員会が定めている「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づいて対応している。 ⑤R1.10.21～R1.11.3の間で実施 回答者数は146人中124人（84.9%） 	<ul style="list-style-type: none"> ①～②予定どおり実施できた。 ③遅滞なく報告及び請求処理を実行した。 ⑤については、計画どおり実施できたが、受験率が過去最低となってしまった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員健診結果の迅速な送付に努める。 ②点検結果に基づき対応を進めていく。 ③名簿更新の際の事務処理が複雑化している為、各関係者と連携を図り、期限までに適切な報告を実施する。 ④随時、町内で統一した基本方針を示していく。 ⑤ストレスチェック制度の回答率を上げるため、周知方法等を改善する必要がある。
	2 職員対象委員会企画研修	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム導入に関する協議会 ・特別支援教育に関する研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム導入に伴う研修会（校務支援、図書） ・特別支援教育研修 ・生活支援員研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回生活支援員研修会の開催 平成31年4月8日（金）農改センター研修室 生活支援員25名参加 ・令和元年度綾川町特別支援教育研修会（兼：第2回生活支援員研修会）の開催（対象は生活支援員、若年教員、特別支援教育担当教員等） 令和元年10月15日（火）農改センター研修室 生活支援員24名、教員12名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援員全員、若年教員の指導力、資質等の向上を促す町独自の研修会を開催することができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員の働き方改革」が注目されているので、県教育委員会主催の研修会との重複（研修期日や研修内容等）を避けながら、町独自の教員研修の在り方を考える必要がある。 ・具体的な事例や有識者の講話等を通して、若年教員や生活支援員の指導力・資質を向上させ、児童生徒の健やかな心身の成長や学校教育の充実・活性化につなげる。 ・次年度は、附属坂出小学校の研究会の機会を捉え、生活支援員の現地研修会（第3回生活支援員研修会）を開催したい。
	3 食育関連	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消をめざした食文化の伝承 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の食材を限られた予算内で調整し、安全安心で美味しい給食の提供 ・年1回、うどん研究会の協力のもと、各小中学校で児童生徒がうどん作りを体験。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の食材を積極的に活用し、給食費の範囲内での栄養バランスのとれた献立の実施。 ・毎月1回野菜業者と旬の野菜や価格について協議をする懇談会を実施し、献立案を検討。 ・うどん作り体験により、児童生徒が地域の食文化を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭、給食、調理員と連携し計画通り実施。 ・児童生徒がうどん作りを体験し、そのうどんを食べることで、「うどん発祥の地」の意識付けができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭等の人事異動による引継ぎを適正に行う。 ・月1回の主任会で、給食関係職員と業務の振り返りを行い、共通認識を深める。

学校教育課		自主的活動や「かかわり合い」を重視した活動の推進				
		主に「ひと」に関して				
評価手順	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4	
	Plan		Do	Check	Action	
評価項	計画・見通し		実行	振り返り	改善	
	内容	方法	取組成果	自己評価	委員評価	
人材を活かす事ができる環境整備	4	<p>スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用</p> <p>・綾上地区1名、綾南地区1名のSSWを配置 昨年度より直接雇用</p>	<p>・小学校、中学校へ年間およそ200回の訪問活動を行う。</p> <p>・ケース会への積極的参加により、生徒指導委員会への専門的視点からのアプローチを行う。</p>	<p>・スクールソーシャルワーカー2名を直接雇用し、綾上地区（綾上小学校、綾上中学校）で141日、綾南地区（昭和・陶・滝宮・羽床小学校、綾南中学校）で198日、それぞれ活動し、保護者、教職員等に対する支援、相談、情報提供や学校内のチーム体制の構築、支援に取り組んだ。</p> <p>・年間30回ほどのケース会に参加し、学校における支援について共通認識を図った。</p> <p>・年間を通じ、県教育委員会の開催するSSW研修会に参加し、スキルアップに努めるとともに、他市町との情報交換を図った。</p>	<p>左記活動以外に、毎月、教育委員会での連絡会を行い、小中学校、教育委員会の連携を図った。</p>	<p>4</p> <p>・勤務時間が9時30分から16時30分であるが、保護者を交えたケース会等の開催が夜間となることもあり、勤務体制の柔軟な対応をしていく必要がある。 また、児童生徒の支援と同時に教職員との情報共有を図り、連携を深めることが重要である。</p>
	5	<p>就学(転入・転出)手続き</p> <p>・学校指定書交付</p> <p>・指定校変更</p> <p>・区域外就学</p>	<p>・住基等に留意し、要件を満たしているか確認。</p> <p>・学校、他市町の教育委員会と連携しながら情報共有を行う。</p>	<p>・学校と情報共有しながら、法令に基づき手続きを行った。</p> <p>2019年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 指定校変更（保護者就労による事案17名、部活動による事案7名、教育的配慮による事案4名） ■ 区域外就学（教育的配慮による事案3名） <p>・学校指定変更の相談が多く、保護者及び学校と相談しつつ、臨機応変に申請書の発行等の事務処理を進めた。</p> <p>・毎月の児童・生徒異動通知においては、正確な情報を学校に届けることに尽力した。</p>	<p>・指定校変更及び転入時期の相談、海外からの編入と事例が多様化してる中で、確実な対応が出来るよう今後も務める。</p> <p>・希望校への就学のため住民票を異動する事案があった。保護者への理解を得られるよう丁寧に説明を行う必要があった。</p>	<p>4</p> <p>・法令等に基づいて、今後も適正な就学手続きを行っていく。</p> <p>・転入学の児童・生徒の情報を整理し、速やかに学校へ提供できるよう努める。</p> <p>・転入学及び学校指定変更の相談事はいつ発生するかがほとんど予測出来ない為、相談者が来庁された際、担当者が不在でも事務処理が滞る事がないよう、事務処理の簡易的な部分（各書類の交付、連絡票の作成等）の方法を課内で共通認識し、対象者へ配慮できるように努める。</p>

学校教育課		自主的活動や「かかわり合い」を重視した活動の推進 主に「ひと」に関して						
		ステップ1 Plan 計画・見通し		ステップ2 Do 実行	ステップ3 Check 振り返り		ステップ4 Action 改善	
評価手順	評価項	内容		方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組
		人材力を活かす事ができる環境整備	6 学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力学習状況調査 県学習状況調査 綾川町学力調査（ベネッセコーポレーションとの契約） QUテスト 		<ul style="list-style-type: none"> 調査の授業改善への生かし方の情報を集め、研修に生かす。 	<p>平成31年度全国学力・学習状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月18日（木）実施 小学校5校 6年生（191人対象） 中学校2校 3年生（190人対象） （令和2年度実施予定日：令和2年4月16日） <p>令和元年度香川県学習状況調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校 令和元年11月5日（火）・6日（水）実施 小学校5校 3～6年生（757人対象） 中学校 令和元年11月13日（水）実施 中学校2校 1～2年生（378人対象） <p>平成31年度町学力調査（ベネッセコーポレーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校 令和元年11月5日（火）・6日（水）実施 小学校5校 1～2年生（378人対象） 中学校 平成31年4月18日（木）実施 中学校2校 1～2年生（378人） 	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施要領に基づき、厳正に調査及び事務処理を行った。 学校の負担軽減を図るため、県学習状況調査の結果入力業務を外部委託で実施した。 各種調査結果を見ると、綾川町の児童生徒は良好な成績を収めている。
7 就学支援	<ul style="list-style-type: none"> ①就学援助 ②学習意欲向上支援 		<ul style="list-style-type: none"> ①就学援助制度の広報 就学援助手続き ②ステップアップ勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ①今年度より各学校からの周知に加えて、HPでの周知も行った。また、新たに援助費目（生徒会費、PTA会費、クラブ活動費）を追加した。 ②夏休み5日間開催（8/19～23） 生徒15名、講師8名 	<ul style="list-style-type: none"> ①費目の追加や単価の見直しを行った。申請手続きも適正に処理できた。 ②生徒、講師とも昨年度より多数の参加が得られ、学習活動充実したものとなった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ①就学援助制度について周知するとともに、手続きを簡潔にできるよう学校や福祉部局との連携を強化していきたい。 ②登校日、高校の体験入学等と重複することがあり、日程の検討が必要である。 	

学校教育課		関係機関と連携して基本的習慣形成を図る					
		主に「こと」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4	
		Plan		Do	Check	Action	
		計画・見直し		実行	振り返り	改善	
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	
						課題への取組	
児童生徒の自律を促すための環境整備	1 教育方針	<ul style="list-style-type: none"> 綾川町の教育方針の提案と管内学校との共有 	<ul style="list-style-type: none"> 校長会で提案し、校種を超えて様々な視点から意見をいただき、構成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 綾川町一貫性教育研究会や「要請による学校指導訪問」等、具体的な場面を通して指導・支援を行う。 各学校の要請に応じて教育アドバイザー（2名）を派遣し、教職員の指導力・資質の向上を促す。 校長会及び教育委員会において、町教育大綱及び教育方針の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 町教育方針や「要請による学校指導訪問」の視点等を踏まえ指導・助言を行った。 教育アドバイザー（2名）が授業参観等を通して授業づくりや生徒指導等の指導・支援を行った。 教育大綱の見直しを踏まえ町教育方針を修正した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 今年度末、次年度当初の定例校長会で、綾川町の教育方針の各学校・園への浸透を図る。 「要請による学校指導訪問」の視点に「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる内容を具体的に明示するとともに、「板書の構造化」を意図的に組み込む。 ベテラン教員の指導力の継承の必要性を継続的に指導・助言する。
	2 学校との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 毎月報告される問題行動調査【月別状況調査報告】 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導に関する情報を共有し、現状の把握と課題解決策の模索を協議しながら実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成31・令和元年度月別問題行動等調査報告を提出する。（必要に応じて聞き取り） 西部教育事務所生徒指導担当指導主事と情報共有（毎月聞き取り対応）し、必要に応じて指導・助言を受ける。 各学校の状況を取りまとめた月別報告の結果を踏まえ、毎月の校長会で県教委通知文や新聞記事等を活用しながら生徒指導等に関する留意事項等について指導・助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定例校長会の際、本町の生徒指導上の問題行動の状況を周知し、課題解消につながる指導・助言を行った。 暴力行為やいじめの認知件数は減少しているが、不登校児童生徒数は微増している。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 不登校児童生徒数の減少を促すため、次年度学校に対して次の指導・助言を行う。 ①家庭訪問等を通して、定期的に該当児童生徒の安否確認を行う。安否確認ができない家庭がある場合は、町教育委員会への報告を求める。 ②心理の専門家であるスクールカウンセラーの専門性を不登校児童の自立につなげるために、学校が積極的にスクールカウンセラーと該当児童生徒・保護者を結びつける側面的支援を行うよう助言する。また、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの役割分担を明確にし、それぞれの専門性が児童生徒の自立に有効に作用するように努める。

学校教育課		関係機関と連携して基本的習慣形成を図る					
		主に「こと」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4	
		Plan		Do	Check	Action	
		計画・見通し		実行	振り返り	改善	
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	
						課題への取組	
児童生徒の自律を促すための環境整備	3	高松西警察署、西部子ども相談センター、町健康福祉課等の関係機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 虐待事案、非行事案の情報を共有する。 生涯学習課所管少年育成センター主催の少年補導連絡会（学期に1回のペース）において学校の現状に係る情報を共有し、解決策を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会、健康福祉課、子育て支援課、西部子ども相談センター、SSW等と児童生徒のケース会（要保護児童対策地域協議会）を実施し、相互に情報共有を図りながら、具体的な支援の在り方を共通理解し、指導・支援に生かす。 少年育成センター、高松西警察署、各学校の生徒指導担当者（生徒指導主事）、町教委等による少年補導連絡協議会（年3回）を通して、情報共有を図りながら問題解決に向けた具体的な取等について意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもの命を守ることが一番」という意識が学校内で高まり、児童相談所や警察等関係機関との連携により一層の深まりが見られた。 特に、1月校長会で令和元年12月に県教育委員会が作成した「児童虐待対応の手引き」を活用した研修会を各学校で行うよう指示した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も児童虐待の未然防止や早期発見のために、各学校の実情に応じて「児童虐待対応の手引き」を活用した教員研修を実施するよう指導・助言する。 定例校長会で新聞記事を通して児童虐待の具体例を提示するなどし、教職員の人権感覚や危機管理意識を高め、問題の早期発見や未然防止等を進める。
	4	「綾川町幼児教育共通プラン」を活用した保育所・幼稚園・小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> 共通プランを保育、幼児教育の拠り所とする。 活用状況の把握と、活用の具体事例を集め、共通プランの有効活用を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 定例校長会等において「綾川町幼児教育共通プラン」の活用状況を把握する。 保育所・幼稚園と小学校との連携に関わる内容を昨年度見直して実効性を高める内容に修正していることを定例校長会や要請による指導訪問の際に周知・確認し、「綾川町幼児教育共通プラン」に対する教職員の意識や関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に「綾川町幼児教育共通プラン」（改訂版）を各学校に配付した。 定例校長会で「小1プロブレム」を解消するために「綾川町幼児教育共通プラン」（改訂版）の有効活用を促した。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度（3月）校長会の際、「綾川町幼児教育共通プラン」（改訂版）のP30「5歳児4期小学校接続期」、P31「小学1年生入学当初」及びP39・40「スタートカリキュラム」の資料を明示し、各学校で輪読するなどして次年度のこども園と小学校の連携を深める相互研修を確実に行うよう指導・助言を行う。 特別な支援を必要とする子どもの適切な就学指導を進めるため、年度当初から校（園）内就学指導委員会の充実・活性化や日常の校園間連携の重要性等について指導・助言を行う必要がある。

学校教育課		関係機関と連携して基本的習慣形成を図る						
		主に「こと」に関して						
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3	ステップ4		
		Plan		Do	Check	Action		
		計画・見通し		実行	振り返り	改善		
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組	
児童生徒の自律を促すための環境整備	5	基本的な生活習慣の定着のための学校と家庭の連携	<ul style="list-style-type: none"> ネット依存やゲーム依存、ネット犯罪等の情報提供及び注意喚起並びに「早寝早起き朝ごはん」運動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員のパソコンにインストールされている指導教材を活用するとともに、児童生徒対象の研修会を実施する。また、以前より継続指導している「早寝早起き朝ごはん」についても動画等を活用するなど県の方針に寄り添って指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ネット依存やゲーム依存、スマートフォンを介したSNSのトラブル等から児童生徒を守るため、児童生徒対象の講演会、保護者対象の講演会を実施を推奨する。 毎月の校長会でネット依存やゲーム、依存ネット犯罪の具体的事例等に関する情報を提供し、各学校での児童生徒への指導・支援や保護者啓発への有効活用を促す。 教育的価値が高い動画を日常の授業に活用できるように、学校から要望等を踏まえてブロックを解除する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ネット依存」や「ゲーム依存」の弊害等への認識を深めるために、定例校長会で新聞記事等を活用して指導・助言を行った。 「ネット依存」や「ゲーム依存」を防ぐための研修会に関する情報を提供した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 「ネット依存」や「ゲーム依存」に陥らない児童生徒を育成するために、各学校等で児童生徒の自治力・自浄力を高める教育活動や保護者の危機管理意識を高める啓発活動を地道に行っていく必要がある。 教職員、保護者、児童生徒に対して、（制定が予定されている）条例の内容や趣旨等を浸透させる取組を企画・立案する。
	6	学校関係者評価の活用を取り入れた教育活動の連携	<ul style="list-style-type: none"> 各校の学校評価委員の協力による学校評価書の活用。 地域との連携を図った学校運営に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の実態に応じた評価項目を分析し、綾川町の教育方針の具体事例を次年度に生かす事ができるようにする。 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 綾南中学校において、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を設置。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ、協議会における協議の中で、学校運営についての共通認識が図れた。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域の連携を図るため、各学校における学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置に努めていく。

生涯学習課評価シート

生涯学習課		持続可能な生涯学習を支援する補助事業					
		主に「もの」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4
		Plan		Do	Check		Action
		計画・見通し		実行	振り返り		改善
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組
主体性を発揮できる環境整備に関する補助等	1	図書館管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 図書館指定管理業務委託 図書館管理運営 問題点の協議検討 	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の定例会において、管理運営に関する協議を実施。 多様な事業の展開によって、来館者数は増加。 町指定文化財等の郷土資料のデジタル化を実施。 「図書館を使った調べる学習コンクール」へは132作品の応募があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな事業の企画等により、多くの人が来館している。 来館者は増加しているものの、図書の貸出につながっていない。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者と積極的に情報交換を行い、サービスの充実を図っていく。
	2	自治公民館・集会所施設等整備補助	<ul style="list-style-type: none"> 施設改修、備品購入、駐車場整備、耐震診断、耐震工事等補助金交付 左記事業に対し審査等を行い、2分の1以内～3分の2の補助を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設修繕 3件（3月13日現在、予定も含む） 備品整備 6件（3月13日現在、予定も含む） 	<ul style="list-style-type: none"> 問い合わせ等の相談件数は例年通り多い。施設の老朽化に伴い要望は高い。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 施設の長寿命化および利用拡大のために計画的に実施するよう周知する。今後も自治公民館・集会所が地域活動の拠点となるよう、適正な維持管理に向けて推進する。
	3	自治公民館連絡協議会・モデル自治公民館補助	<ul style="list-style-type: none"> 連絡協議会活動補助金及び自治公民館活動補助金の交付 生涯学習モデル自治公民館に補助金を交付 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡協議会及び各自治公民館等の地域活動に対し補助金を交付 積極的な活動を行っているモデル的な自治公民館等（最大20館）に対し、5万円の補助金を交付 	<ul style="list-style-type: none"> 連絡協議会による先進地視察（岡山県高梁市宇治地域まちづくり推進協議会の取組、参加者44名）及びリーダー養成研修会（事例発表等、参加者91名）を実施 モデル交付予定 20館（前年19館） 	<ul style="list-style-type: none"> 先進地視察及びリーダー養成研修会とも参加者数は、ほぼ横ばいである。 モデル事業については1館増の20館を指定することができた。 	3

生涯学習課		住民の多様な学習ニーズに対応できる生涯学習施策の充実（施策内容）					
		主に「ひと」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4
		Plan		Do	Check		Action
		計画・見通し		実行	振り返り		改善
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組
人材育成を主眼にした環境整備と環境設定	1 生涯学習講座	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館等で講座を実施(14講座) 	講座内容等の検討を行い、5月に受講生を募集し、6月から講座を実施している。	<ul style="list-style-type: none"> 全14講座を実施 新規講座として、大人の華遊び、つまみ細工教室、いきいき健康体操を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員を上回り抽選となる講座もあるが、新規講座を開講し、新たな受講生を増やす努力をした。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 講座終了後に公民館クラブへ移行できるように内容を充実させ、さらに新規講座の実施等を図りながら新たな受講生を掘り起こしていく。
	2 文化芸術関係事業	<ul style="list-style-type: none"> 文化協会団体交流活動補助金の交付 文化行事開催 	<ul style="list-style-type: none"> 協会内の団体会員間で行事を行った場合に経費を補助金として交付 11月第4日曜日に本物の芸術に触れる機会として文化事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 会員相互の活動に対し、補助金を交付。 11月24日（日）文化協会主催事業「キャラメルマシンのスーパーサイエンスマジックショー」を実施。来場者数299人。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化協会内の団体会員間の交流活動が活発ではなかった。 文化事業は若年層向けだったこともあり、来場者数が増加。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 文化協会会員同士の活動の幅を広げるため補助金要綱を平成30年度に見直したが、団体間交流が出来にくい部門もあり、有効に活用してもらえよう再度、見直していく。 文化事業は引続き町民の文化意識の向上を図れる内容を検討していく。
	3 青少年教育事業	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みに主に地区公民館で子ども教室を実施 子ども会育成事業 	<ul style="list-style-type: none"> 地区公民館等で、体験活動等の教室を実施。教室によっては、2日間開催や午前の部・午後の部などを設け、また、親子で参加できるようにするなどし、多くの児童が参加できるようにする。 子ども会リーダーキャンプ 子ども会ドッジボール大会 育成者研修会等 児童生徒の作品展示事業 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み子ども教室 17教室を夏休みに開催。今年度もたくさんの申込みがあった。新規の教室として、花遊びワークショップ、リサイクルガラスでサンドアート教室、ヨガと英語であそぼう等を実施し、親子で参加できる教室や午前と午後の2回実施のものもあり、好評であった。 子ども会事業 12月1日（日）に町ドッジボール大会を実施。（綾上校区により運営） 町大会の今後について検討会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み子ども教室 希望者が出来るだけ多く受講できるように講師の方々に協力していただいた。 子ども会事業 ドッジボール大会では各校区間の交流を図ることができた。 検討会では、より多くの子どもたちが大会に参加できるよう協議ができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み子ども教室 引き続き内容の充実を図り、普段の授業では体験できない教室を多く開催していく。 子ども会事業 次年度から町大会の競技種目を変更することとなるが、引き続き各校区間の交流が図れる事業としていく。

生涯学習課		住民の多様な学習ニーズに対応できる生涯学習施策の充実（施策内容）						
		主に「ひと」に関して						
評価手順	ステップ1		ステップ2		ステップ3		ステップ4	
	Plan		Do		Check		Action	
評価項	計画・見通し		実行		振り返り		改善	
	内容（目安）	方法	取組成果		自己評価	委員評価	課題への取組	
人材育成を主眼にした環境整備と環境設定	4	成人式	<ul style="list-style-type: none"> 1月3日に綾南農村環境改善センターにて開催 	10時より開式、式典・記念行事・記念撮影を行う。午前中で終了。	1月3日（金）午前10時から開催。参加者数176名。記念行事は、記念ビデオを上映。別室にて、式典の映像中継を実施。記念写真用のフレームを作製。	<ul style="list-style-type: none"> 大きな混乱もなく、二十歳の門出にふさわしい式典開催することができた。 中継会場へは新成人の保護者等が多数来場していた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、二十歳の門出にふさわしい式典を開催できるよう努める。
	5	婦人学級	<ul style="list-style-type: none"> 中央婦人学級の開催 各地区公民館での婦人学級の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 中央婦人学級は年間4～5回程度開催。 各地区婦人学級では、県事業である「くらしのセミナー」の活用等、生活に密着した内容で、講師を招いて研修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央婦人学級 県警による特殊詐欺についての講演の実施。また、岡山方面への一日研修（岡山和気ヤクルト工場の見学等）、テーブルマナー研修の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 特殊詐欺や防災学習など日常生活に必要な、また役立つ内容の研修を行った。 参加者の意見をもとに内容を決定した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 学級生が日常生活で役立つ内容を実施していくが、無関心にならないよう、様々な問題意識の高揚を図れる内容を学習活動に取り入れていく。
	6	高齢者学級	<ul style="list-style-type: none"> 各地区公民館での高齢者学級の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材や「くらしのセミナー」の講師を活用し、身近な内容の学習の機会を設ける 高齢者学級生の作文集「生きがい」の発行 	<ul style="list-style-type: none"> 各地区公民館で、月1回程度60歳以上の方を対象に学級を開催。 年1回バスを利用して社会見学を実施。 学級生の作文集「生きがい」を発行。（2月末） 	<ul style="list-style-type: none"> 学級生からの要望をもとに、生活に役立つ、身近な内容の研修を行った。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、日常生活に生かせるよう身近な内容の学習活動を行う。

生涯学習課		地域づくり、健康づくりを目指した地域活動、スポーツ活動の推進（事業内容）						
		主に「こと」に関して						
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4	
		Plan		Do	Check		Action	
		計画・見通し		実行	振り返り		改善	
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組	
事業企画運営	1	総合運動公園管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 全天候型陸上競技場 アリーナ 2Fホール ミーティングルーム テニスコート 多目的グラウンド イベント広場 	<ul style="list-style-type: none"> 一般に無料または有料で施設開放 施設の維持管理 年間利用者数 名 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館アリーナ照明（LED化）改修 テニスコート照明（LED化）改修 体育館昇降機機能維持修繕（部品取替等） 電気設備修繕（高圧気中開閉器取替） 	<ul style="list-style-type: none"> 体育館アリーナ及びテニスコートの照明をLED照明に交換した。また、リースであるので、動産総合保険が契約に含まれている。 利用者層も若年層から高齢者層まで各世代が利用している。 <p>その他、経年熱価している部分の修繕も行った。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> 次年度においては、次期の公認を受けるために、陸上競技場の改修を計画している。主に20年以上前に設置した中央部分の芝生を張替える予定である。改修後も多くの利用者が見込めるよう取り組む。
	2	ふれあい運動公園管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> 野球場 アリーナ 武道場 プール 多目的広場 	<ul style="list-style-type: none"> 一般に無料または有料で施設開放 施設の維持管理 年間利用者数 名 	<ul style="list-style-type: none"> 野球場スコアボード修繕 	<ul style="list-style-type: none"> 落雷のためスコアボードが故障し、修繕をおこなったが、3カ月ぐらい、スコアボードが使用できない状態となり利用者に不便をかけたしまった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 施設の老朽化が進んでいるため、施設修繕を検討しなければならない。
	3	体育協会・スポーツ少年団等補助事業	<ul style="list-style-type: none"> 体育協会、スポーツ少年団補助金交付 	<ul style="list-style-type: none"> 団体の活動支援、大会結果等の広報掲載 大会参加者 会員数等 	<ul style="list-style-type: none"> 体育協会 17団体、1,187名（会員36名減） スポーツ少年団 14単位団、393名（単位団増減なし、団員30名増） 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の競技力の向上はもとより体力の向上に繋げている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> より多くの方が団体にて、健全育成、健康増進のためのスポーツを担えるよう図る。

生涯学習課		地域づくり、健康づくりを目指した地域活動、スポーツ活動の推進（事業内容）					
		主に「こと」に関して					
評価手順	評価項	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4
		Plan		Do	Check		Action
		計画・見通し		実行	振り返り		改善
		内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組
事業企画運営	4 生涯スポーツ関係事業	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール大会開催 アジャタ大会開催 綱引大会開催 ジョギング大会開催 スポーツ教室開催 	<ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツ大会及びスポーツ教室の実施 ソフトボール 募集 アジャタ 募集 綱引 募集 ジョギング 募集 教室 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール大会 5月9日（土）ふれあい運動公園 6チーム、73名参加（24チーム減） アジャタ大会 6月23日（日）総合運動公園 一般の部9チーム、レディースの部12チーム、シニアの部2チーム、ジュニアの部6チーム、計173名参加（9チーム減） 初心者ソフトテニス教室 ふれあい運動公園 夏季 7月29日～8月26日 4回 冬季 1月7日～1月16日 6回 町民綱引大会 2/23（日）総合運動公園（開催予定） 大人53チーム、子ども17チームの参加予定 ジョギング大会 3/22（日）総合運動公園（開催予定） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール大会は安全性を考慮し、大会を日中に開催した。開催時間の変更により参加チームは大きく減少した。 第3回を迎えたアジャタ大会も企業団体の不参加もあり減少した。 例年、町内外の多くの方に参加いただいているジョギング大会は、今年度も定員の300組を大きく上回り、受付を早期に締め切った。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 運動する習慣がない人でも気軽に参加できる大会・教室を目指し、より多くの方が参加いただけるよう、内容等を検討する。 スポーツ教室のメニューを増やし、内容等も多くの人に興味を持っていただけるよう検討する。 綱引大会については、毎年多くの方に参加いただいている。今後も継続した大会の開催を計画している。
	5 幼児体操教室開催事業	<ul style="list-style-type: none"> 幼児（4・5歳児）を対象とした体操、水泳教室 	<ul style="list-style-type: none"> B&G綾上海洋センターで開催。（5月～12月） 水曜日と金曜日の2クラス（定員35名）指導者1人とアシスタント2人により実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 5月～12月、B&G海洋センターで開催。水曜日・金曜日の各クラスとも定員である35名で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も例年と同じく好評であった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> 室内の体操だけでなく、自然に触れる体験ができるようメニューを検討する。

生涯学習課		地域づくり、健康づくりを目指した地域活動、スポーツ活動の推進（事業内容）						
		主に「こと」に関して						
評価手順	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4		
	Plan		Do	Check		Action		
評価項	計画・見通し		実行	振り返り		改善		
	内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組		
事業企画運営	6	青少年の健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・少年育成センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援教室 名 ・育成補導員 32名 ・補導活動 ・各種キャンペーン ・パンフレット作成 ・各種団体への自動車用マグネットの配布、見守り協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引続きイオン綾川において「万引き防止キャンペーン」を実施した。 ・「育成だより」を年2回発行し、全戸配布した。 ・四国地区少年補導センター連絡協議会定期大会が徳島市で開催され、2名が参加した。 ・学校、警察、教育委員会、少年育成センターで、補導連絡会を3回行い、情報交換をした。 ・補導員による補導活動を定期的実施。 ・「見守り隊」の啓発用の自動車マグネットシートを新たに昭和地域安全パトロール隊などに配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・警察、学校、育成センターによる育成補導連絡会で有意義な情報交換ができた。 ・町内の危険箇所注意を促す表示をした。 ・「こども見守り隊」の自動車マグネットシートはおやじの会・公用車等を中心に活用している。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども見守り隊」活動を拡大するとともに、学校や地域、関係団体との連携を更に強め、町ぐるみで青少年の健全育成に取り組めるよう、啓発活動の充実を図る。
	7	人権・同和教育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・同和教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成 ・広報誌に掲載 ・社会教育関係団体等の会合のなかでの人権・同和研修の実施 ・企業同和研修会の実施 ・人権・同和教育研究会、研修会等への参加 ・児童生徒の人権作品の展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂出市、宇多津町、綾川町の共同で「人権・同和教育だより」を作成し、全戸配布及び戸別送付した。 ・広報あやがわに「人権・同和教育だより」を毎月掲載。 ・四国地区人権教育研究会（徳島市）、全国人権・同和教育研究会（三重県）が開催され参加した。 ・上記全国大会に、小中学校、教育委員会事務局から10名が参加した。 ・児童・生徒の人権啓発作品を、坂出市人権展覧会に出展し、人権週間に合わせて生涯学習センターで展示した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き広報活動を行なった。 ・人権啓発作品の掲示による啓発活動を行なった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育活動において、関係機関、各種社会教育関係団体や企業と協議し、研修をはじめとする学習機会を増やし、啓発活動を推進していく。

生涯学習課		地域づくり、健康づくりを目指した地域活動、スポーツ活動の推進（事業内容）						
		主に「こと」に関して						
評価手順	ステップ1		ステップ2	ステップ3		ステップ4		
	Plan		Do	Check		Action		
評価項	計画・見通し		実行	振り返り		改善		
	内容（目安）	方法	取組成果	自己評価	委員評価	課題への取組		
事業企画運営	8	文化財保護事業	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財発掘、資料整理業務 開発事案の文化財保護指導 文化財保護調査 文化財保護協会 	<ul style="list-style-type: none"> すべっと窯跡保存整備 ますえ畑瓦窯跡現況調査 県営農業競争力強化農地盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査 文化財保存、調査 文化財臨地研修 文化財企画展示事業 滝宮の念仏踊 	<ul style="list-style-type: none"> 香川県指定史跡保存整備事業「すべっと窯跡」の保存整備事業として、窯体の発掘調査と周辺環境の整備を実施。 県営農業競争力強化農地盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査北武徳遺跡の記録保存調査を実施。溝等の遺構や土器の出土を確認し、保護が完了した。 文化財保護協会 会員数60名。11月6日（水）岡山県総社市、岡山市、倉敷市にて臨地研修を実施。参加者26名。 文化財企画展示「サヌキの藩札展」と「讃岐国府を探る10」（香川県埋蔵文化財センター共催）を開催。 滝宮の念仏踊保存会に対し補助金を交付。イオンモール綾川にて念仏踊を披露。『全国民俗芸能「風流」保存振興連合会』（全風連）に加盟。 	<ul style="list-style-type: none"> 崩落の危機にあった「すべっと窯跡」の保護と、見学等の活用面を改善することができた。 ますえ畑瓦窯跡の調査に着手できなかった。 滝宮の念仏踊をイオンモール綾川で披露できたことは、貴重な文化財の大きなPRとなった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> すべっと窯跡に引き続き、ますえ畑瓦窯跡の保存整備についても検討する。 滝宮の念仏踊については、加盟した全国組織や関係機関と協力しながら、保護と活用を図っていく。